



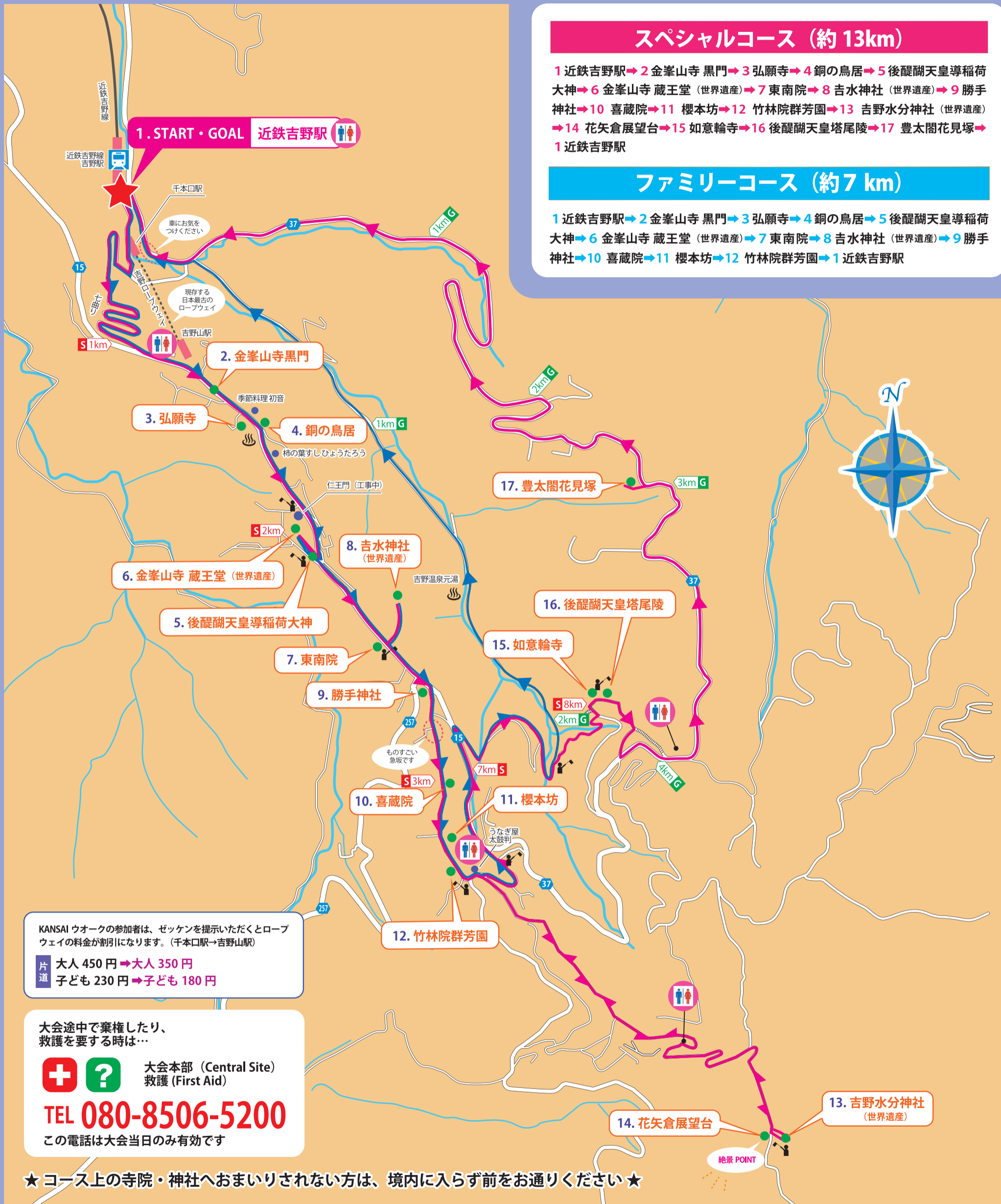
世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」 ゆかりの地を歩く

第3回大会 奈良・吉野エリア  
『世界遺産 金峯山寺』



# KANSAI ウォーク 2024

【コース監修】北川央  
(九度山・真田ミュージアム名誉館長)



大会途中で棄権したり、  
救護を要する時は…

  大会本部 (Central Site)  
救護 (First Aid)

**TEL 080-8506-5200**

この電話は大会当日のみ有効です

### 1. 近鉄吉野駅



桜の名所として名高い吉野山は、春になると、谷や尾根を埋める清楚な白い山桜が覆われ、その数は3万本ともいわれる。同駅は昭和3年(1928)吉野鉄道の六田 - 吉野間延伸にともない開業。その後、吉野鉄道は合併を繰り返して、大阪電気軌道、関西急行鉄道の駅となり、さらに昭和19年(1944)戦時統合により関西急行鉄道が南海鉄道と合併して近畿日本鉄道(近鉄)となった。吉野駅は同鉄道吉野線の終着駅となった。なお、戦後の昭和22年(1947)に南海電気鉄道が再び分離・独立した。

### 2. 金峯山寺 黒門



かつて吉野山から山上ヶ岳一帯には、100を超える金峯山寺の子院が存在したが、黒門はそれら金峯山寺全体の総門。昔は大名さへも槍を伏せ馬から降りて通ったと言われ、吉野山の関所としても機能した。現在の建物は、蔵王堂の昭和の大修理に合わせて建て替えられたもの。

### 3. 弘願寺



黒門をくぐって最初にあるお寺。本尊は阿彌陀如来像(県指定文化財)で、鎌倉時代の正元2年(1260)の作。歯痛に靈験があるといわれる関屋地蔵を祀っており、毎年6月の第一日曜日には歯がため地蔵祭が行われる。もとは金峯山寺の「上之坊」であったが、高野山真言宗の寺院になった。

黒門をくぐって最初にあるお寺。本尊は阿彌陀如来像(県指定文化財)で、鎌倉時代の正元2年(1260)の作。歯痛に靈験があるといわれる関屋地蔵を祀っており、毎年6月の第一日曜日には歯がため地蔵祭が行われる。もとは金峯山寺の「上之坊」であったが、高野山真言宗の寺院になった。

### 4. 銅の鳥居



安芸の宮島の朱塗りの鳥居、大阪・四天王寺の石の鳥居とともに「日本三鳥居」の一つに数えられる。本来の名称は「発心門」で、菩提心を発するところとされ、初めて大峯修行を志す行者の行場の一つ。「吉野なる 銅の鳥居に 手をかけて 弥陀の浄土に 入るぞうれしき」という秘歌が伝えられる。高さ7.6m。聖武天皇が奈良・東大寺の大仏の余銅で作らせたとも、醍醐天皇が昌泰元年(898)に建立したともいわれる。現在の鳥居は康正年間(1455~57)に再建されたもので、以後数回の修理が行われた。国指定重要文化財。金峯山四門の第一門で、山上ヶ岳までの間に「修行」「等覚」「妙覚」の三つの門が後に続く。

安芸の宮島の朱塗りの鳥居、大阪・四天王寺の石の鳥居とともに「日本三鳥居」の一つに数えられる。本来の名称は「発心門」で、菩提心を発するところとされ、初めて大峯修行を志す行者の行場の一つ。「吉野なる 銅の鳥居に 手をかけて 弥陀の浄土に 入るぞうれしき」という秘歌が伝えられる。高さ7.6m。聖武天皇が奈良・東大寺の大仏の余銅で作らせたとも、醍醐天皇が昌泰元年(898)に建立したともいわれる。現在の鳥居は康正年間(1455~57)に再建されたもので、以後数回の修理が行われた。国指定重要文化財。金峯山四門の第一門で、山上ヶ岳までの間に「修行」「等覚」「妙覚」の三つの門が後に続く。

### 5. 後醍醐天皇導稲荷大神



北朝方との対立が激しくなり、やむなく京都を脱出した後醍醐天皇は、延元元年(1336)12月28日に吉野の行宮(あんぐう)に到着した。途中、夜道に迷ったとき、とある稲荷社の前で、天皇が「むば玉の 暗き闇路に 迷うなり 我にかさなむ 三つのもし火」と歌を詠むと、突如、紅い雲が湧き出て、吉野への道を照らし、その導きにより、無事、天皇は吉野に着くことができた。紅い雲は「金の御岳」(金峯山)の上で消え失せたという。この稲荷を勧請したのが「導稲荷」である。

北朝方との対立が激しくなり、やむなく京都を脱出した後醍醐天皇は、延元元年(1336)12月28日に吉野の行宮(あんぐう)に到着した。途中、夜道に迷ったとき、とある稲荷社の前で、天皇が「むば玉の 暗き闇路に 迷うなり 我にかさなむ 三つのもし火」と歌を詠むと、突如、紅い雲が湧き出て、吉野への道を照らし、その導きにより、無事、天皇は吉野に着くことができた。紅い雲は「金の御岳」(金峯山)の上で消え失せたという。この稲荷を勧請したのが「導稲荷」である。

### 6. 金峯山寺 蔵王堂 (世界遺産)



吉野山のシンボルであり、金峯山修験本宗の総本山である金峯山寺の本堂。現在の蔵王堂は天正20年(1592)に豊臣秀吉の寄進によって再建されたもので、国宝に指定され、世界遺産にも登録されている。高さは34mに及び、木造建築としては東大寺大仏殿に次ぐ規模を誇る。ウォーク当日は日本最大の秘仏本尊「金剛蔵王大権現」3体(いずれも重要文化財)が開帳されている。また大河ドラマ「光る君へ」で、藤原道長が金峯山(吉野山から山上ヶ岳)に詣でた際、自筆の経典を納めるシーンが放映されたが、その自筆経典が、今年、新たに国宝に指定された。(特別拝観料:大人1,600円、中高生1,200円、小学生800円)

### 9. 勝手神社



吉野山山上へのぼる街道と如意輪寺に向かう道の分岐点に位置する。後方の袖振山は、大海人皇子(のちの天武天皇)が社前で琴をかなでたとき、天女が袖をひるがえして舞ったという伝説で知られる。この天女の舞が「五節(ごせち)の舞(まい)」の起源になったといわれる。境内では、義経と別れた静御前が追手に捕えられ、請われて舞いを舞ったといわれる。社殿は平成13年(2001)に焼失。御神体は現在、吉水神社に遷座している。

### 12. 竹林院群芳園



竹林院は聖徳太子の創建、弘法大師空海の中興と伝えられる修験寺院で、もとは金峯山寺の有力な子院であったが、現在は単立寺院。大峯山護持院の一つ。庭園の「群芳園」は、豊臣秀吉の「吉野の花見」の際に千利休が作庭し、細川幽齋が改修したと伝えられる池泉回遊式の庭園で、大和三庭園の一つに数えられる。

### 15. 如意輪寺



延喜年間(901~923)に、竹林院中興の日藏道賢によって創建されたと伝えられる、後醍醐天皇の勅願寺となった。正平2年(1347)12月、楠木正行は143人の一族郎党とともに後醍醐天皇陵に参拝したあと、この寺の如意輪観音に参詣した。仏前に髻(もとどり)を納め、扉板に鎌(やじり)で、「かへらじとかねて思へば 梓弓 なきかずに入る 名をぞとどむる」という辞世を刻み、河内の四條畷の戦場へと出陣したと伝えられる。その扉は今も残り、宝物殿に展示されている。境内には正行一行の髻塚もある。桜材の蔵王権現立像は嘉禄2年(1226)の作で、国の重要文化財に指定されている。

### 7. 東南院



修験道の開祖である役小角(えんのおづぬ)[役(えん)の行者(ぎょうじゃ)]の開基と伝えられる金峯山修験本宗の別格本山で、大峯山護持院の一つ。代々近衛家の帰依を受けて同家祈願所となり、寺紋も近衛家と同じ牡丹となっている。松尾芭蕉の『野ざらし紀行』にある「砦うちて 我に聞かせよや 坊が妻」の「坊」は当院であるといわれている。境内の多宝塔は昭和12年(1937)に和歌山県海南市の野上八幡から移築されたもので、平安時代中期の大日如来像(県指定文化財)が安置される。

修験道の開祖である役小角(えんのおづぬ)[役(えん)の行者(ぎょうじゃ)]の開基と伝えられる金峯山修験本宗の別格本山で、大峯山護持院の一つ。代々近衛家の帰依を受けて同家祈願所となり、寺紋も近衛家と同じ牡丹となっている。松尾芭蕉の『野ざらし紀行』にある「砦うちて 我に聞かせよや 坊が妻」の「坊」は当院であるといわれている。境内の多宝塔は昭和12年(1937)に和歌山県海南市の野上八幡から移築されたもので、平安時代中期の大日如来像(県指定文化財)が安置される。

### 10. 喜蔵院



天台密教の第三祖たる智証大師円珍が、大峯山で修行したおりに建立した小堂が起源とされる。比叡山中興の祖といわれる慈恵大師良源(りょうげん)が大峯修行をするおりもここを拠点とした。現在は京都の聖護院門跡を総本山とする「本山修験宗」の別格本山で、大峯山護持院の一つ。寛文7年(1667)には、由比正雪の乱にかかわったとの疑いをかけられた熊沢蕃山がこの寺に身を隠した。境内に、「この春は 吉野の山の 山守と なりてこそ知れ 花の心を」という蕃山の歌碑がある。宿坊のほか、ユースホステルも運営している。

天台密教の第三祖たる智証大師円珍が、大峯山で修行したおりに建立した小堂が起源とされる。比叡山中興の祖といわれる慈恵大師良源(りょうげん)が大峯修行をするおりもここを拠点とした。現在は京都の聖護院門跡を総本山とする「本山修験宗」の別格本山で、大峯山護持院の一つ。寛文7年(1667)には、由比正雪の乱にかかわったとの疑いをかけられた熊沢蕃山がこの寺に身を隠した。境内に、「この春は 吉野の山の 山守と なりてこそ知れ 花の心を」という蕃山の歌碑がある。宿坊のほか、ユースホステルも運営している。

### 11. 櫻本坊



天智天皇10年(671)の冬、大海人皇子(のちの天武天皇)は吉野山に満開の桜が咲き誇る夢を見た。皇子が役小角の高弟である角常に夢判断を命じたところ、「それは皇子が天皇の位につかれるとの良い報せでしょう」とのことであった。果たして翌年、壬申の乱に勝利した皇子は天皇として即位した。天皇は夢に現れた桜を探して吉野山に登り、見つけた桜の木のもとに寺を創建した。これが「櫻本坊」であると伝えられる。神仏習合の修験道場として栄えたが、明治の神仏分離で一旦廃寺となった。その後、元の密蔵院の建物を使って「櫻本坊」が復活し、廃寺となった山内諸寺院の仏像・仏具などもこの寺に集めたので「諸仏堂」とも呼ばれた。現在は金峯山修験本宗の別格本山で、大峯山護持院の一つ。本尊の役行者(神変大菩薩)倚像、釈迦如来坐像、地藏菩薩坐像がいずれも国の重要文化財になっている。

天智天皇10年(671)の冬、大海人皇子(のちの天武天皇)は吉野山に満開の桜が咲き誇る夢を見た。皇子が役小角の高弟である角常に夢判断を命じたところ、「それは皇子が天皇の位につかれるとの良い報せでしょう」とのことであった。果たして翌年、壬申の乱に勝利した皇子は天皇として即位した。天皇は夢に現れた桜を探して吉野山に登り、見つけた桜の木のもとに寺を創建した。これが「櫻本坊」であると伝えられる。神仏習合の修験道場として栄えたが、明治の神仏分離で一旦廃寺となった。その後、元の密蔵院の建物を使って「櫻本坊」が復活し、廃寺となった山内諸寺院の仏像・仏具などもこの寺に集めたので「諸仏堂」とも呼ばれた。現在は金峯山修験本宗の別格本山で、大峯山護持院の一つ。本尊の役行者(神変大菩薩)倚像、釈迦如来坐像、地藏菩薩坐像がいずれも国の重要文化財になっている。

### 13. 吉野水分神社 (世界遺産)



水の分配を司る天水分(あめのみくまり)大神(のおおかみ)を主祭神に玉依姫(たまよりひめ)命(のみこと)など6柱の神を祀る。玉依姫命の神像は、彩色の十二単(ひとえ)を着け、胎内には建長3年(1251)10月16日の銘があり、国宝に指定されている。「みくまり」が訛(なま)って「みこもり」となり、俗に「子守(こもり)明神」と称され、子授け・安産・子どもの守護神として篤く信仰されている。

水の分配を司る天水分(あめのみくまり)大神(のおおかみ)を主祭神に玉依姫(たまよりひめ)命(のみこと)など6柱の神を祀る。玉依姫命の神像は、彩色の十二単(ひとえ)を着け、胎内には建長3年(1251)10月16日の銘があり、国宝に指定されている。「みくまり」が訛(なま)って「みこもり」となり、俗に「子守(こもり)明神」と称され、子授け・安産・子どもの守護神として篤く信仰されている。

### 16. 後醍醐天皇 塔尾陵



後醍醐天皇の御陵で、如意輪寺の裏山にある。延元4年(1339)8月16日、後醍醐天皇は、「玉骨はたとひ南山の苔に埋るとも魂魄は北関の天を望まんと思ふ」との遺詔を残し、波瀾の生涯を閉じた。そのため、この山陵は京の空を睨むように北を正面として築かれており、「北面の陵」とも呼ばれる。芭蕉はこの陵を訪れ、「御廟年を経て しのぶは何を しのぶ草」の句を残した。

後醍醐天皇の御陵で、如意輪寺の裏山にある。延元4年(1339)8月16日、後醍醐天皇は、「玉骨はたとひ南山の苔に埋るとも魂魄は北関の天を望まんと思ふ」との遺詔を残し、波瀾の生涯を閉じた。そのため、この山陵は京の空を睨むように北を正面として築かれており、「北面の陵」とも呼ばれる。芭蕉はこの陵を訪れ、「御廟年を経て しのぶは何を しのぶ草」の句を残した。

### 17. 豊太閤花見塚



文禄3年(1594)2月25日、豊臣秀吉は吉野山の桜を見るため、大坂城を出発。行列は総勢5,000人に及び、関白豊臣秀次や徳川家康・前田利家・細川幽齋・織田信雄・宇喜多秀家・伊達政宗ら錚々たる大名たちや菊亭晴季・日野輝資らの公卿たちが付き従った。その日は当麻(たいま) (奈良県葛城市当麻)に泊まり、翌日も当麻に滞在して、27日に吉野に入った。吉水城(吉水院)に泊まったが、明けて28日は雨。29日も雨が続き、途中から天気が回復したため、この日は各自自由に花見を行い、歌会も催された。翌30日には盛大に花見が行われ、3月1日には蔵王堂前で能も行われた。翌3月2日、秀吉は吉野山を下り、高野山へと向かった。この「豊太閤花見塚」は、秀吉が花見を楽しんだ故地と伝えられる。

文禄3年(1594)2月25日、豊臣秀吉は吉野山の桜を見るため、大坂城を出発。行列は総勢5,000人に及び、関白豊臣秀次や徳川家康・前田利家・細川幽齋・織田信雄・宇喜多秀家・伊達政宗ら錚々たる大名たちや菊亭晴季・日野輝資らの公卿たちが付き従った。その日は当麻(たいま) (奈良県葛城市当麻)に泊まり、翌日も当麻に滞在して、27日に吉野に入った。吉水城(吉水院)に泊まったが、明けて28日は雨。29日も雨が続き、途中から天気が回復したため、この日は各自自由に花見を行い、歌会も催された。翌30日には盛大に花見が行われ、3月1日には蔵王堂前で能も行われた。翌3月2日、秀吉は吉野山を下り、高野山へと向かった。この「豊太閤花見塚」は、秀吉が花見を楽しんだ故地と伝えられる。

### 14. 花矢倉展望台



獅子尾坂をのぼりつめたところにある世尊寺跡の一画で、吉野随一の展望台となっている。眼下に上千本、中千本、蔵王堂を見下ろせ、金剛・葛城・二上山を遠望できる。謡曲「忠信」の舞台上、源義経の忠臣であった佐藤忠信が一人でここに踏み留まり、追手に矢を射かけて、義経が落ち延びるのを助けたと伝えられる。

獅子尾坂をのぼりつめたところにある世尊寺跡の一画で、吉野随一の展望台となっている。眼下に上千本、中千本、蔵王堂を見下ろせ、金剛・葛城・二上山を遠望できる。謡曲「忠信」の舞台上、源義経の忠臣であった佐藤忠信が一人でここに踏み留まり、追手に矢を射かけて、義経が落ち延びるのを助けたと伝えられる。